

2022年5月25日(水)第四水曜祈祷会

エズラ記7:1~28

「主の御手が彼の上に」

■エズラ記の梗概 *バビロン捕囚以後のイスラエルの歴史(エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記)

- ・預言者ハガイとゼカリヤの預言によって工事が再開。ダレイオス王に書状の写しが送られる。
- ・神の命令、そして歴代の王たちの命令のもと、BC516年に神殿が完成した。

■「捕囚からの解放」

1. エズラの登場(7章1~10節)

- ①エズラはどんな人物でしたか(1~6節)。
→彼はアロンの子孫、正統な祭司、モーセの律法に通じている学者
- ②エズラとその一行がエルサレムについたのは、どんな理由からですか。
→神の恵みの御手が彼の上にあった。神の特別な守りを示す。
- ③神の恵みの御手がエズラとその一行の上にあったのはなぜですか。
→律法を調べ、実行し、それを教えようと心に定めていたから。

2. アルタクセルクセス王の手紙(7章11~26節)

- ①王はエズラにどんな命令を下しましたか。
→神に律法に従ってユダとエルサレムを調査すること、献げものの費用を支給をすること、礼拝のための用具を供えること(必要ならば王室の金庫から支出してもいい)
- ②王はユーフラテス川西方の財務官全員にどんな命令を下しましたか。
→エズラに対する全面支援。神の宮に仕える者たちへの免税。
- ③再びエズラにどんな命令を下しましたか。
→自分の手にあるあなたの神の知恵に従って民を裁くこと

3. エズラの賛美(7章27~28節)

- ①エズラは王の心を動かしたのはだれだと言っていますか。
→私たちの父祖の神、主が働かれた(栄光を主にお返ししている)
- ②エズラは自分を奮い立たせた理由はなんだと言っていますか。
→私の神、主の御手が私の上にあったので

【適用と分かち合い】

- ①エズラはどんな人物だったと思いますか。
- ②アルタクセルクセス王の思いはどのように変わったのですか。
- ③エズラはなぜ神を賛美しているのですか。